

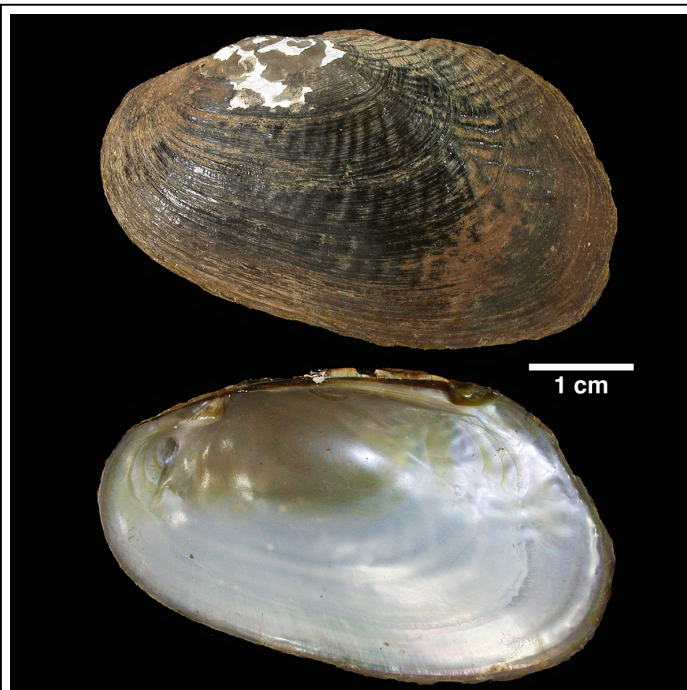
カタハガイ *Obovalis omiensis* (Heimburg)

【選定理由】

本種の属するイシガイ科貝類は、河川の下流域や平野部の用水路などの流れが緩やかで底質が砂泥で水質の良い場所を生息場所としている。県内ではこのような場所はほとんど破壊されてしまったため、1960年代には広い分布を持ち多産したイシガイ科貝類全体の生息が危機的状況である。その中でも本種は特に水質の良い場所を好み、本種が生息する場所では他のイシガイ科貝類も多く見られることが多い(木村, 1994; 木村・中西, 1997)。県内では1970年代に絶滅したと考えられる。

【形態】

日本産イシガイ科貝類としては中型で、生息場所によって大きさに変異があるが、県内産個体の殻長は約8 cm。殻長は殻高に比べて大きく、輪郭は長方形に近い。殻幅が小さくやや膨らみは弱い。後側部にやや大きく強い分岐した肋状の彫刻がある。左右両殻ともやや強い三角形の1主歯を持つが、後側歯は無い。この特徴が片歯(かたは)という和名の由来である。



豊橋市牛川町牟呂用水, 1960年代, 中山清採集

【分布の概要】

【県内の分布】

1960年代中頃までは木曾川水系の日光川、五条川、矢作川水系、豊川水系などで生息が確認されていたが(愛知県科学教育センター, 1967)、県内では河川下流域や平野部の小川や用水路の生息環境は壊滅的で、1970年頃に同所的に分布することが多いオバエボシガイと共に絶滅したと思われる。1998年からの現地調査でも再発見を試みたが、本種が生息する可能性のある場所さえ見つけることができなかった。

【世界及び国内の分布】

日本固有種。愛知県以西の本州、九州北部の河川下流域に分布する。湖沼には分布しない。

【生息地の環境／生態的特性】

上述したように、河川の下流域や平野部の用水路などの流れが緩やかな底質が砂泥底で水質の良い場所を生息場所としている。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したように、県内では絶滅したと思われる。

【特記事項】

水産資源保護協会(1995)では「希少」とランクされ、本種の分布域全体での絶滅の危惧が指摘されている。岐阜県(2010)では絶滅危惧Ⅱ類にランクされている。

【引用文献】

- 愛知県科学教育センター, 1967. 愛知の動物. 222pp.
岐阜県, 2010. 岐阜県の絶滅のおそれのある野生動物 動物編 改訂版.
(https://www.pref.gifu.lg.jp/kurashi/kankyo/shizenhogo/c11265/index_17185.html)
木村昭一, 1994. 東海地方の淡水貝類相. 研究彙報(第33報): 14-34. 全国高等学校水産教育研究会.
木村昭一・中西尚史, 1997. 東海地方に分布するオトコタテボシ属の1種. ちりぼたん, 27(2): 41-48. 日本貝類学会.
水産資源保護協会, 1995. 軟体動物. 日本の希少な野生水産物に関する基礎資料(Ⅱ), 131pp.

(木村昭一)